

授業科目名 <英訳>		系統的レビュー Systematic Reviews			担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 教授 古川 壽亮				
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 通年不定	曜時限	月1,2 開講日注意	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
I. コースの概要											
<p>夏期休暇をまたぐ全18コマの講義と演習により、各参加者が興味を持つテーマについて系統的レビューのプロトコルを英文で完成する。原則、18コマは隔週の2コマずつで進行し、講義と講義のあいだに自らプロトコルを洗練させるための自習時間がかかり必要になるので注意されたい。 *MCR限定推奨なので、実際にこのカリキュラムで系統的レビューのプロトコルを完成させたい人がぜひ選択していただきたい。</p>											
II. 教育・学習方法											
<p>講義は以下の手順で進行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者は下記Handbookを分担して担当し、自習したサマリーを講義でプレゼンする 2. このプレゼンに応じて自分のプロトコルの該当部分を書き、次回の講義で発表する。この発表に対しピアおよび古川からコメントをもらい、 3. 講義終了後1週間以内にプロトコルの該当部分を修正して提出する 4. 古川はその次の講義までにそれを添削するので、添削コメントに応じてプロトコルの該当部分を完成する <p>自習にかなりの時間がかかると思われるので、授業は原則隔週で行う（開講日注意）。</p>											
[到達目標]											
<p>○各参加者が興味を持つ臨床疑問を洗練した上で、それについてコクランレビューレベルの英文プロトコルを完成させる</p> <p>○コクランの該当グループにプロトコルを登録したうえでコクランライブラリーに収載されることを目指す、または登録をせずに雑誌投稿を目指す希望者には、最終的に系統的レビューを完成させるまで本講義終了後も指導します</p>											
[授業計画と内容]											
第1回	6月 1日	イントロダクション									
第2回	6月 2 2日	Formulating the clinical question, Objectives and Criteria for considering studies									
第3回	7月 1 3日	Search methods									
第4回	7月 2 7日	Selection of studies & extracting data									
(夏休みでPECOを完成し、Introductionの下書きを書き、Search & Selectを行い、希望者はtitle registrationを行う)											
第5回	9月 2 8日	Assessment of risk of bias									
第6回	10月 1 9日	Analysis (1)									
第7回	11月 2日	Analysis (2)									
第8回	11月 1 6日	まとめ									
予備日	11月 3 0日	予備日									
(発表までの時間が空いていますが、Introductionを書き上げるのに時間が必要だと思います)											
系統的レビュー(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

系統的レビュー(2)

第9回 12月7日 発表(1)
第10回 12月14日 発表(2)

[履修要件]

本科目は6月からですので、4～6月の医療統計学や疫学の履修をお勧めします。
MCR限定推奨

[成績評価の方法・観点及び達成度]

完成論文のIntroduction & Methodsに相当する系統的レビュー・プロトコルを提出していただきます。
その評価が100%です。

[教科書]

Higgins JPT, Green S 『Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions』 (Available from www.cochrane-handbook.or) (必須。このHandbookに則って指導する。オンライン版よりも古いVersion 5.0がWileyから出版されていて、Amazonで5000円程度で入手できる。好みによるがprinted versionがあったほうが便利です)

必須ソフトウェア：

Review Manager (RevMan) [Computer program]. Version 5.2. Copenhagen: The Nordic Cochrane Centre, The Cochrane Collaboration, 2013. (必須。このソフトウェアを使ってプロトコルを書き、最終的にメタアナリシスする)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

コクランへの登録が年々難しくなっています。トライする価値は十二分にあると思いますが、雑誌への投稿もオプションとして考えましょう。下手にコクランのニッチを狙うよりも、来年からのあなたの臨床を変えるテーマに取り組みましょう

(その他(オフィスアワー等))

人間健康科学系専攻学生の受講可否：不可

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。